



仮想空間における都市のイメージ

大分大学工学部建設工学科 都市計画研究室

0935019 繁永 幸治

Concept

仮想空間は人間の活動、コミュニケーション、移動、表現の能力を拡張するものであり、その多次元的な特色を利用して発達していくものである。

第一段階

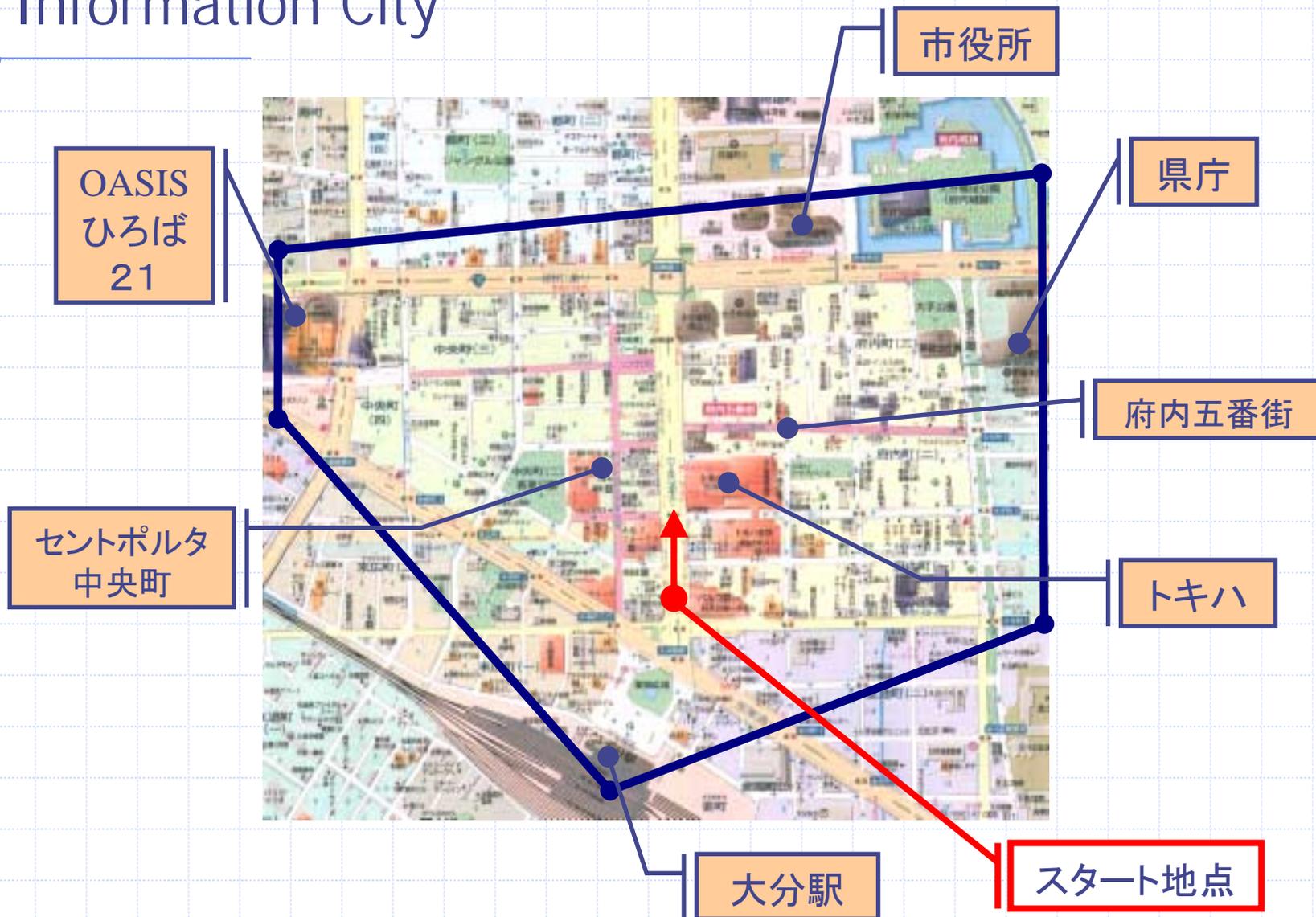
Information City : 既存の都市に近い形で表現

第二段階

Cyber City : 頭の中の都市を可視化

情報処理システムを利用した仮想空間における都市のイメージを今後どのように表現していくかを考え、提案する。

Information City



Information City



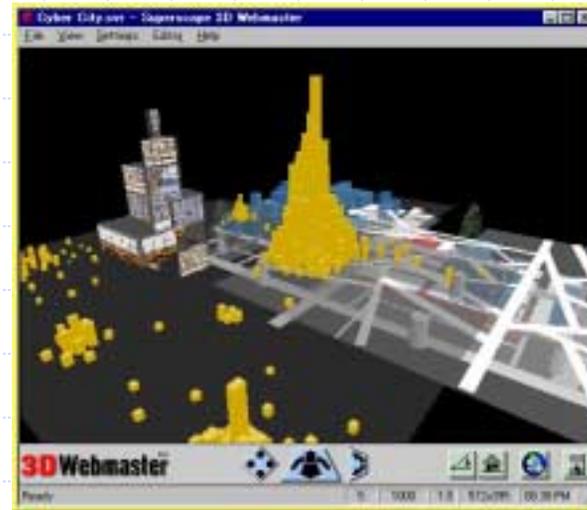
Information City



Cyber City

- 都市のデータ化
- 階層ごとの分類
- 都市の密集化に伴う上下方向への発達
- 都市の建物そのものがインターフェースとなり、壁や柱から直接可能なアクセス
- 人が頭の中で想像する都市のイメージの可視化
- 都市の未来像

Cyber City



総括

Information City

長所：都市の形を理解しやすい

短所：都市の内部(特徴)を理解しにくい

Cyber City

長所：都市の特徴をつかみやすい

短所：既存の都市との関連性が認識しにくい

都市の外側と内側を知ってはじめて都市のイメージをもつ事が可能であり、そのためには Information City と Cyber City のように目で見える部分と目に見えない部分を可視化し、認識する事が必要である。